城北埼玉中学校

算数

全分野から偏りなく、基本レベルから応用レベルの問題まで幅広く出題しており、特に計算力、図形の基本的な性質（面積・体積、辺の長さの比と面積の比の関係など）を見抜く力、文章題を理解する力が十分に身についている受験生を求めています。近年では「説明を書く問題」を出題することもあるので、算数に登場する用語を正しく理解するようにしてください。また、定規・コンパスの使い方にも慣れておくと、作図する問題が出題されたときに、たくさんの時間をかけずに解くことができるでしょう。多くの問題は標準的なものなので、塾のテキストで演習を繰り返し行うことで十分に合格する力をつけられると思います。

国語

文章問題が 2 題あり、ほかは漢字の読み書きです。文章がやや長く、また設問に紛らわしい選択肢があるため、短時間で文章を読み、内容をつかむことが要求されます。といっても、特別なことをするのではなく、文章をていねいに読み、作者・筆者の訴えていることを正確に読み取る練習をしてください。また、自分の意見を述べる 50 字程度の記述問題も出題しています。ここでは、自分の考えをわかりやすく表現する力を求めています。

理科

4 分野からまんべんなく出題し、配点は 4 分野均等です。知識を問う問題だけでなく、計算力・思考力を問う問題もあります。実験に関する問題では、得られたデータを処理する能力や、問題文を理解する読解力が必要です。実験の目的と方法、その結果からわかることなどを、きちんと理解する力を求めています。

社会

3 分野とも、ほぼ同じ配分で出題します。記号選択と用語記述のほかに、短文記述（20 字前後まで）も出題することがあります。受験生の読解力・思考力を問うため、分野にまたがる総合問題・融合問題とともに、地図・写真・グラフ・資料の読み取りの問題も出します。用語の解答は、ほとんどが漢字指定となっているので、内容の理解だけでなく、正確な書き取りが要求されます。また、時事問題も多くあります。ふだんから新聞やニュースなどを通じて、世の中の出来事に関心を持つようにすれば対策は可能です。なお、3 分野の融合問題を出題するのは第 1 回入試のみです。

大妻嵐山中学校

算数

【一般入試・まなび力入試】大問は 4 題程度です。各大問には小問 2～10 問があり、合計 25 問程度を出題します。大問1は、中学数学を学んでいくうえで不可欠な計算力を問う問題です。小数や分数の計算を含むので、決まりに従って正確に答えを導き出す練習をしてください。大問2からは、さまざまな分野で必要となる基本的な考え方を、きちんと理解しているかどうかを見る問題です。特に後半では、文章題や規則性を見つける問題、グラフを読み取る問題、図形問題などで、思考力・応用力を問います。全体的に難問・奇問というレベルではないので、日ごろから問題文をよく読んで、解き方の道筋を正しく順序立てて考える訓練をしておいてください。

【大妻特待入試】大問として 5 題程度を出題します。各大問には小問 2～6 問あり合計 20 問程度出題します。全体的に難問・奇問はなく、数の性質、図形、文章題など各分野からバランスよく出題します。一つの単元をきちんと理解し、応用問題を解く力もつけておくとよいでしょう。

国語

いずれの入試でも、語句問題・説明的文章・文学的文章の三つの大問を出題します。語句問題では、漢字の読み書き、ことわざ・慣用句、四字熟語、語句の意味、文法の知識などを問います。説明的文章の読解には論理的思考力が必要となるため、長めの文章に読み慣れ、結論や要点をつかむ練習が必要となります。文学的文章では、場面設定や登場人物の心情などについて読解し、考えを表現する力を問います。いずれの文章でも、本文をていねいに読解し、問われていることに正しく答える力や、本文に即して筆者の主張や登場人物の心情を理解し、説明する力が求められます。

理科

大問は 4 題で、生物・化学・地学・物理の順に出題します。複数の分野にまたがる複合的な問題も出題します。小学校で学習する理科の内容をもとに、実験結果や図表・グラフなどを読み取り、分析・考察する力や、筋道を立てて考える論理的思考力を問います。

対策としては、教科書に出てくる基本的な用語や知識を確実に身につけるとともに、実験・観察の方法やその結果、そこから導き出されることについても理解を深めておくことが大切です。また、日ごろから身の回りの自然現象に興味・関心を持ち、疑問に思ったことを自分で調べたり、理由を考えたりする習慣を身につけてください。知識を覚えるだけでなく、それを活用して考える力を養うことが、入試への効果的な対策につながります。

社会

地理・歴史・公民の各分野の基本的知識を、どの程度身につけているかを確認する問題を出題します。各分野からの出題を通して、①社会のしくみ、歴史、地理に関する基礎的な知識、②それらの知識や情報を用いて、社会的な事象について理解する力、③日々変化する社会情勢に興味・関心を持ち、それらについて考える姿勢、④理解したことや考えたこ

とを説明する力、があるかどうかを問います。過去問などを使って、さまざまな問題演習に取り組みましょう。また、統計・グラフ・図表などを読み取る練習もしておきましょう。

国府台女子学院中学部

算数

基本的な計算を正確に解答する力を身につけてください。推薦・第１回・第２回の入試において、第１問は整数・小数・分数の四則混合計算問題、第２問は短い文章形式の計算穴埋め問題、第３問は計算過程を考えさせる問題になっています。第１問から第３問までで全体の約６割の点数を占めており、そこでどれだけ得点できるかがポイントになっています。特殊算の代表的な解法は習得しておきましょう。また、図形やグラフの問題については、3 年分の過去問を解いて対策をしてください。

国語

今年度から、推薦・第１回・第２回ともに同形式（小問集合・文章読解問題）となります。すべての入試とも、文章読解問題は１題（説明的文章か文学的文章）となります。知識を問う小問はどの入試でも比重が高いので、よく勉強しておきましょう。漢字・熟語、慣用句・ことわざ、正しい文章表現、短文作りなどに加え、「ヒントに沿って考える力」を見る問題も出題する予定です。

理科

推薦・第１回・第２回のすべての入試において、大問４題（生物・化学・地学・物理の各分野の大問）です。知識問題や計算問題を含めて、基礎から応用まで幅広く出題しますので、問題文や実験データをよく読み取り、法則や規則を見つけられるような練習をしておくとよいでしょう。

社会

出題傾向は例年並みです。時事的な問題も出題するので、新聞・テレビのニュースなどに興味・関心を持つようにしてください。また、世界にも目を配って勉強しておきましょう。地理は、日本各地の気候・風土や、各種の産業、統計資料などもよく勉強しておいてください。歴史は各時代の流れをきちんと整理、把握しておいてください。

和洋国府台女子中学校

算数
計算・一行問題が約 6 割、文章題や図形・思考力を問う応用問題が約 4 割の構成です。考え方や解答の理由を記述させる設問も含まれます。計算や一行問題を素早く正確に解き、記述や応用問題に十分な時間を充てられるよう、日ごろから時間配分を意識して臨みましょう。

国語
長文読解（文学的文章・説明的文章)、表現力・言語能力を測る作文や長文記述、漢字・語彙・文法・国語基礎知識などを出題します。テクニックだけに走らないていねいな読み取りや、経験に基づく発想力なども必要です。問いを順に解き進めることで長文全体の主題が理解できるように問題作成をしています。

理科
物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題します。観察や実験の結果を問う問題、グラフや表を正しく読み取る問題、理由や仕組みを記述する問題、ニュースなどで話題になった科学の時事問題など、いろいろな形式の問題に慣れておくようにしてください。

社会
地理・歴史が各 4 割程度、政治と国際社会が 2 割程度の出題です。資料あるいは知識をもとに、記述で解答する問題があります。都道府県名や人物名・用語は、教科書に漢字で表記されているものについては、正しい漢字で書けるように勉強してください。

英語
リスニング問題とリーディング問題はそれぞれ約半分の割合で出題します。日常で起こりうる状況や図表などから考える問題があります。難度は従来どおり、英検®4 級から 3 級程度のレベルです。「いつどこで誰が何をしたか」を意識して問題に取り組みましょう。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

市川中学校

算数

大問は 5 題程度で、解答時間は 50 分です。自分が解きやすい問題を把握して、時間配分をしてください。計算問題や基本問題から、図形やグラフ、読解力を問う問題も出題しています。問題文を正確に読み取り、論理的に答えを導き出す力、規則性を見る力、式・図形を見る力、計算力を確かめたいと考えています。

国語

「長文」2 題、「漢字に関する問題」の問題構成です。文章の難度は例年あまり変わりません。時間配分に注意して、正確に、かつスピーディーに読解し、解答することが大切です。記述問題を出題します。記述問題は答えるべき要素が入っていれば部分点があるので、あきらめないでください。

理科

広い分野からの出題を心がけています。大問は 4 題で、物理 1 題・化学 1 題・生物 1 題・地学 1 題という構成です。基本的な理解ができていることを問う問題が半数を占めます。パターン学習に走らず、しっかり基本を身につけてください。計算問題、用語を問う問題、論理性を問う問題を出題します。記述問題も出題しますが、そこでは採点者に伝わる正確な語で、わかりやすい説明をすることを求めています。標準レベルの問題の出来具合が決め手となるでしょう。

社会

第 1 問は歴史、第 2 問は地理、第 3 問は公民という構成です。時間配分に気をつけて、できる問題から解いてください。記号選択の問題がほとんどですが、単純な記号選択問題はありません。正誤問題や時代順並び替え問題などで出題されるので、「幅広く」「正確な知識」を身につけておいてください。記述問題は、何が問われているのか（メインとなる問いは何か、付随する条件は何か）をしっかり把握し、それに「応え」るように「答え」てください。

江戸川学園取手中学校

算数
大問は 6 題です。計算問題や文章題、図形問題など幅広い分野から出題し、思考力を問うものがやや多くなります。コンパス・定規・分度器は必要ありません。記述を求めるものも出題します。

国語
文章問題を 2 題出題します。漢字の書き取りは文章問題のなかで、1 割程度の配点で出題します。ことわざ・慣用句、語句の意味なども数問あります。文学史の問題はありません。また、100 字程度の記述問題も出ます。

理科
4 分野から大問 4 題を出題します。実験・観察を表す図・文章・表・グラフを見て解く形式で、各分野からまんべんなく出題しています。形式は、選択式のほかに適語記入、計算、作図やグラフの読み取りなどがあります。近年は、記述力や思考力を試す問題にも力を入れています。

社会
地理分野は日本地理を中心に、世界地理も出題します。歴史分野は各時代からまんべんなく出題します。公民分野は用語を覚えるだけではなく、意味を説明できることも求められます。なお、漢字指定の問題があるため、漢字で書くべき事柄は漢字で書けるようにしておきましょう。思考力を重視した問題も出題します。

英語［英語型］
出題レベルは CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）で A1 から A2 程度、実用英語検定で 3 級から準 2 級程度となります。ただし、マーク形式ではなく、選択式と記述式を併用します。内容は、語彙・文法・作文・長文読解などです。リスニング問題も含まれます。言語としての英語の知識だけではなく、論理的に物事を考える力や、コミュニケーションツールとして英語を活用できる力も試します。

適性型 A
大問は主に国語と社会を中心として 3 題出題します。複数の資料を読み解く力や文章を読んで自分の考えを書く力を問う問題を出題します。論述問題が中心となるので、表・グラフ・地図を解釈する能力を高めるとともに、自分が伝えたいことを明確に伝える表現力も養成するようにしてください。

適性型 B
理数的な総合問題を出題します。与えられている情報を整理し、公式や現象につなげられる発想力や、それを表現できる思考力が特に求められます。解答に当たっては問題文

をしっかり読むようにすることがポイントです。

大宮開成中学校

算数

基礎知識・計算力・図形処理能力・読解力・論理的思考力を重視する問題構成です。大問は 7 題で、大問1は「小問集合（計算）」、大問2は「小問集合（特殊算）」、大問3は「図形問題」です。ここまでを落とさないことが合格の鍵です。また、大問4～7は文章題で、「割合や比の問題」「考える問題」「速さに関する問題」「図形を利用した問題」などを出題します。文章題を１題でも多く解答できると、高得点が狙えます。

算数選抜（1 月 12 日午後）

午前入試と同じく、基礎知識・計算力・図形処理能力・読解力・論理的思考力を重視する問題構成です。午前入試と違い、試験時間は 60 分、配点は 120 点です。大問は 5 題で、大問1は「図形問題」、大問2は「割合や比の問題」、大問3は「考える問題」、大問4は「速さに関する問題」、大問5は「図形を利用した問題」です。午前入試の算数と似た構成になっています。また、午前入試と同じく、途中式を記入するような問題はありません。

国語

大問 3 題構成で、どの大問にも思考力を問う設問を織り込み、文章読解力と表現力を見ます。大問1は「国語知識・グラフの読み取り」です。漢字の書き取りでは、「とめ・はね・はらい」を正確に書きましょう。グラフの読み取りでは、的確に情報を引き出して表現できるかどうかを問います。大問2の「論説文」では、語句や文の補充、指示語の内容指摘、本文内容理解について問います。大問3の「物語文」では、登場人物の心情や人物像、表現の特徴などについて問います。すべての問題を最後まで解き切れるよう、どこから取り組むかを工夫し、時間を計って演習に取り組みましょう。

理科

生物・物理・地学・化学の 4 分野からまんべんなく出題し、基礎知識だけでなく、文章やグラフの読解力、計算力も問います。“見慣れない”題材も出てきますが、資料をきちんと読み取り、論理的に考えられれば解答できる内容です。大問 4 題構成で、1～4はそれぞれ生物・物理・地学・化学の各分野の問題になっています。特に2の物理と4の化学では計算力を要するので、スピードをつける練習をしてください。出題傾向は変わらないので、本校の過去問題を使った練習が役立つでしょう。

社会

地理・歴史・公民（論述問題を含む）の 3 分野から基本的な知識に加え、思考力や判断力、表現力を問います。地理分野では日本の自然や農業・産業などについて、地図や統計資料の読み取りを要する問題も出題します。歴史分野では「いつどこで誰が何をした」にとどまらず、その原因や理由、影響を簡潔に述べてもらいます。また、資料や写真の確認も必須です。公民分野では、憲法や政治・経済の仕組みなどの基本事項を問うほか、最後の論述問題（50 字程度）では、新聞やニュースで取り上げられた時事的な事柄につい

て、自分の意見や、さまざまな立場からの意見を述べる力が必要です。問題量が多いので、どの大問から取り組むかを工夫しましょう。

開智中学校・開智所沢中等教育学校

算数

途中の考え方を聞く問題も一部出題します。すべての入試で小問集合があります。速く正確に計算ができるように、日ごろから繰り返し練習をしておきましょう。またすべての入試で文章をしっかり読んで答える問題があります。ていねいに読み、問われていることを理解して解けるようにしましょう。本校の入試問題には、はっきりとした傾向がありますので、過去問題を解いてその傾向をつかみ、対策することが非常に大切です。

国語

基礎的なことばの力をしっかり身につけましょう。漢字の知識を増やしてください。また、自分の知らないことばや語句に触れたときは、辞書で調べるようにしましょう。たくさんのことばを知ると、表現力を豊かにすることにもつながります。次に、自分の書いた文章は必ず読み返しましょう。そうすれば、主語・述語の関係や「てにをは」の間違いに気づきます。文章を比較して、どの文章がどんな立場からの意見を述べているか、考えながら読んでいきましょう。時間を意識しながら文章を読む練習も積んでおいてください。

理科

基本的には、各分野からまんべんなく出題する予定です。基礎的な知識を問う問題はもちろんですが、リード文を正しく読み取る力や、データを読み取ってグラフを描く力を見る問題、計算問題などもあります。知識も大事ですが、より思考力が求められる総合的な問題もあるので、応用問題への対策も欠かさずやっておいてください。時間配分を考えて、解ける問題から解いていきましょう。

社会

まず、基本的な内容の正しい理解を心がけてください。きちんと知識が定着するまで繰り返し復習することが重要です。また、自分で説明する問題では、基礎的な内容をしっかり身につけたうえで、その知識を使って考えることが正解につながります。地理・歴史・公民分野からほぼ同じ割合で出題するので、不得意分野をつくらないことも大切です。過去問題をしっかり解いておくと、傾向もつかみやすいと思います。

春日部共栄中学校

算数

大問 6 題を出題します。1は計算問題 5 問です。分数の計算を正確にできるようにしておきましょう。また、さまざまな単位換算を理解しておきましょう。2はさまざまな分野の小問集合 3 問で、時間配分に注意が必要です。3は点や図形が動いてできる図形について、長さや面積などを求める問題と、回転体の問題です。図形の動く様子をとらえられるようにしておきましょう。4は数え上げて法則を見つける問題で、少し時間をかければ得点しやすい内容となっています。5はグラフを読み取る問題です。グラフをうまく活用できるようにしましょう。6は定義演算の問題です。必ず例が与えられているので、そこから演算の意味を読み取れるようにしておきましょう。出題内容に大きな変更はありませんので、過去問をしっかり解くことが大切です。

国語

大問は 4 題です。1は漢字問題、2は説明的文章の読解問題、3は物語的文章の読解問題、4はグラフや表を読み取り、表現する問題です。1の漢字問題は漢字検定 5 級と 4 級の漢字から書き取りを 7 問、読みを 3 問出題します。2・3では、文章を読み、理解したうえで考え、表現する力を問います。問題文中より、文法・語彙の問題も出題します。4では、グラフや表から読み取った内容を考え、文章で表現できるを問います。内容を読み取る練習とともに、誤った表現・表記のない、わかりやすい文章を書く練習もしておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問 4 題を出題します。四つの大問はすべて必答となっており、各分野とも、基礎と応用を問う問題で構成されています。基礎力をしっかりと身につけることが何よりも重要ですが、身近な現象から発展させた事象を問う問題もあります。図や表、文中の文言から関連・関係を読み解く練習や、文中のキーワードを見つけ、わかりやすくまとめる練習もしておきましょう。

社会

大問は 3 題です。1は地理分野（20 点）で、日本の地形・気候・農業・工業・都市が出題の中心となります。特に地形図を扱った問題は必ず出題されるので、その見方を確認しておきましょう。2は歴史分野（20 点）で、各時代の特徴をしっかりとつかみ、歴史の流れを理解しておくことが重要です。また、史料や写真を使った問題も多いので、資料集や参考書に載っている史料や写真に目を通しておくとよいでしょう。3は公民分野（10 点）で、憲法や人権、環境、社会的な出来事に関する問題が中心となります。全体の傾向には大きな変更がないので、過去問をしっかりと解くことがいちばんの対策となります。

光英 VERITAS 中学校

算数

大問は 6 題（小問合計 16～20 問）で、解答用紙は答えのみを記入する形式です。ただし、特待選抜入試では、考え方や途中計算を記述する問題も出題します。試験時間は 50 分で、100 点満点です。大問【1】は計算問題で小問は 3～4 問、大問【2】は穴埋め問題で小問は 5 問です。大問【3】以降は標準・応用問題です。速さ・時間・道のりに関するグラフの読み取り、平面図形・立体図形などが頻出となっています。特殊算も出題しているので、さまざまな問題について解き方を習得しておきましょう。計算力と基礎・基本をしっかり身につけ、数学的な思考力・洞察力を磨いてください。なお、VERITAS 算数入試（1 科入試）は、基本問題（計算、1 行問題）が 8～9 割、思考力問題が 1～2 割で、算数の基礎力を問うものです。

国語

大問は 4 題あります。大問【一】は漢字の読み書きの問題です。【二】は文章理解、思考を問う問題で、問題文に詩や小説なども含みます。【三】は、説明的な文章における読解力や思考力を問う問題です。論理的な展開や筆者の主張・内容を理解できているか、キーワードに着目して、わかりやすく表現できるかを確認していきます。自分の意見を書く問題も出題します。最後に【四】では、新聞のコラムを 100 字で要約する問題を出します。時事問題や社会の様子に興味を持ち、コラムなどの文章に触れておくことが大切です。書かれているテーマや主張について理解し、論理的な文章構成で表現していく力が必要となります。なお、今年初めて実施する VERITAS 国語入試（1 科入試）は、漢字・語彙・論理的文章・小説的文章の出題で、中学受験の国語として標準的な形式の問題を通して、国語学習で基本的な力を確実に身につけてきたかを問います。

理科

大問は 4 題あり、物理・化学・生物・地学の 4 分野から均等に出題します。生物分野は、植物の光合成とからだのつくり、動物の呼吸、消化・吸収、分類などから出します。多くは知識を問う問題です。化学分野は、気体の発生と性質、水溶液の性質、溶解度と再結晶などです。難度の高い問題では、再結晶の量などの計算を出題することが多くあります。物理分野は、てこ、電気の回路、光と音などです。てこなどに代表されるように、論理的な思考の積み重ねで答える問題が少なくありません。地学分野は、流水と地層、火山の特徴、地震の波、気温と湿度、前線と雲の関係、星座の動きなどから出題します。基本的な事項を答える問題が多くあります。

社会

大問は 3 題構成で、それぞれに地理・歴史・公民を織り交ぜて出題します。基本的な知識や理解力に加えて、思考力・表現力・読解力も問います。ふだんの学習では資料や統計などに触れ、用語などは漢字で覚えるようにしましょう。歴史分野では、古代から現代までの流れをつかみながら学習してください。資料の読み取りや記述問題も出題します。語句

を暗記するのではなく、出来事の時代背景や影響も説明できるようにしましょう。地理・公民分野では、重要語句だけでなく、地図やグラフを読み取る力も問います。ふだんから日本と世界の結びつきに関心を持ちましょう。ただ暗記するのではなく、物事を分析しながら学習することが大切です。

VERITAS 理数特待選抜入試

算数は定型的なパターン問題だけでなく、基本からきちんと考える力があるかを試す問題も出題しています。単純な計算問題は出題しません。標準～応用レベルの 1～2 行程度の文章題に続き、図形に関する問題と思考力問題を出題します。答えを導くまでの考え方や式を書く問題もあります。理科の範囲内で、計算を伴う問題も出題します。

埼玉栄中学校

算数
出題形式は例年どおりで、基本的な計算問題も出題しています。文章題では、濃度、割合、速度、整数の性質、比などの学習をしておいてください。また、面積・体積の問題もしっかり解けるようにしてください。部分点は基本的にありませんが、思考力を問う問題も一部出題する予定です。

国語
文章読解は説明的文章と文学的文章（小説）の 2 題です。説明的文章は段落の吟味、語句の意味、接続詞などが問われます。文学的文章は心理描写の把握が中心です。慣用句、表現技法にも注意しましょう。漢字の書き取りは 10 問出題します。ことばの問題もあります。

理科
4 分野（物理・化学・生物・地学）からまんべんなく出題します。設問は選択式と記述式の併用型です。基本的な問題や、実験・観察についての内容が中心です。また、身近な生活のなかで見られる事象や環境問題、新聞・ニュースにも関心を持ってください。

社会
大問は 3 題で、3 分野（地理・歴史・公民）からそれぞれ出題します。いずれの分野も日本に対する事柄が中心です。各分野とも基礎的・基本的な知識を問う問題が中心ですが、地図や資料を読み取る問題や思考力を問う問題も一部出題されます。

栄東中学校

算数

すべての日程で「規則性」などの数の性質や「図形」の問題を出題します。これらの単元は合格者と不合格者の正答率の差が大きく出る問題です。Ⅰ入試・Ⅱ入試・Ⅲ入試では、1小問集合を8問、2～5はそれぞれ3問構成で全20問の出題となっています。2～5の（1）と（2）は基礎的な問題になっており、（3）を解くためのヒントになっていることが多いです。一方、東大特待入試では、1で小問集合を6問、2～4が大設問となっており、応用的な考え方を問う問題や図示を含めた記述問題が数問あります。

国語

漢字や語句などの知識分野で、配点の2～3割程度を出題します。単純に知識を問う問題もあれば、その場で思考をはたらかせて解く問題もあります。漢字は、書き取りの形式で出題します。語句は、和語、ことわざ・慣用句、外来語などから出題します。文章題は、原則として、文学的文章と説明的文章の2題構成となっており、文章の総字数は約9000～1万字程度です。解答形式は、抜き出し・選択肢・記述が混在しています。また、記述式の問題では、本文中から正解を読み取って表現する問題だけではなく、自分の経験を踏まえて意見を記述するなど、「自分で正解を創る」問題を出題することがあります。

理科

各日程ともに、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。それぞれの分野に関する観察や実験を題材に、自然の事物や現象について考察していく内容が中心となります。また、グラフや表を読み取る問題もあります。配点の目安は、物理・化学・生物が均等（28%×3分野＝84%）で、地学が少なめ（16%）となります。東大特待入試・Ⅰ入試・Ⅱ入試・Ⅲ入試の出題傾向は同じです。東大特待入試の問題には、計算量が多いものが含まれています。

社会

各日程ともに、地理・歴史・公民の各分野から出題し、配点の割合は2：2：1となります。東大特待入試は、昨年度の出題傾向と比べて大きな変更はありません。地理では、日本の地理を中心に、日本とつながりのある国についても問います。歴史では、時代を限定せず、古代から現代までが出題範囲です。人物や時代ごとに主な出来事をまとめ、流れをつかんでおくとよいでしょう。公民では、政治分野を中心に出題しますが、経済・国際分野も出題範囲に含みます。Ⅰ入試・Ⅱ入試・Ⅲ入試は、試験時間が理科と合わせて50分になっています。原則として、大問1を主に地理から、大問2を主に歴史から、大問3を主に公民から出題します。大問1・2については、自分の考えを述べたり、出来事などについて説明したりする簡単な論述を出題します。昨年度まで公民は、大問1・2にそれぞれ関連する問題を出題していましたが、今年度より大問3を新設し、独立して出題します。出題傾向に大きな変更はありません。日本国憲法の条文も、学習している内容と関連させて確認しておくとよいでしょう。

芝浦工業大学柏中学校

算数
第1回・第2回とも、大問7題の構成です。1は計算などの基礎力を見る小問、2～4は簡単な文章題や図形の中問、5～7は文章題や図形の問題です。途中の式や考え方を記入する問題のほか、答えに至る理由や考え方そのものを文章で表現する問題も出題します。

国語
第1回・第2回とも、大問3題の構成です。1は漢字、2は説明的文章、3は物語的文章で、出題形式・傾向ともに例年とほぼ同じです。説明的文章（70字程度）と物語的文章（70字程度）で、合わせて200字程度の記述問題があります。

理科
第1回・第2回とも、大問4題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。単なる知識だけではなく、思考力・計算力も問います。簡単な記述問題もあります。また、総合的な内容もこれまでどおり出題するので、身近な現象・エネルギー・環境などにも関心を持ちながら、各分野をバランスよく学習してください。

社会
第1回・第2回とも、大問3題の構成で、歴史分野（日本の歴史）、地理分野（日本の地理）、公民分野（政治・経済）から出題します。各分野において、グラフ・表・図・地図などの資料から読み取る問題もあり、新聞・テレビなどでよく報道されている内容も扱います。漢字指定で用語を解答する問題は、漢字で正しく書かないと不正解になります。分野によっては、10～50字程度の文で説明する問題も出題します。ポイントを押さえて、わかりやすく説明することが大切です。

英語
英語のレベルは、英検®3級から2級レベルです。リスニングは、1回のみの放送で、2人の会話を聞き、その内容に関する質問に答える問題14題と、短い英文を聞き、その内容に関する質問に答える問題6題が出されます。リーディングは、2～3題を出題。語数は、200～350語程度です。英文を読み、その内容に関する質問に答える問題や、内容に関する文を完成させる問題です。ライティングは、提示された質問文に対する意見とその理由を二つ書く問題で、語数は50～60語です。語彙レベルが易しくても、自分の意見を伝えられるようにしましょう。

課題作文
人文社会系テーマ（45分・計250～400字）と理数系テーマ（45分・計200～400字）があり、いずれも簡易的な適性検査型課題作文です。文章を中心に、表・グラフ・図などの資料を参考にしながら解答する問題も含まれます。なお、課題作文入試の面接（5～10

分）は、人物を確認するためのもので、特に対策をしなくても答えられる内容です。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

昭和学院秀英中学校

本校の入試問題は、基礎的・基本的な内容の知識をしっかりと習得し、それらを活用・応用できる力を問うものです。また、問題文を正確に読み取り、情報を整理し、自分の頭で考える習慣も大切にしています。日ごろから幅広い学びを通して、知識をつなぎ、筋道を立てて考える力を養っておくことが求められます。

算数

3 回の入試とも大問が第 1 問から第 5 問まである構成です。出題傾向は例年どおりと考えてください。第 1 問と第 2 問は小問集合です。第 1 問は代数、第 2 問は幾何からの出題です。基本的な問題を中心に、いろいろな分野から出題をしています。考えさせるような問題を出題することもあります。
第 3 問以降はいくつかの小問を持つ大問です。平面図形・立体図形・数の性質（整数・場合の数・数列・規則性）の範囲のなかから多く出題される傾向があります。特に図形問題は頻出です。しっかりと対策をしてください。大問の難度は標準レベルを考えています。大問のはじめのほうの問題は、比較的基本的なもの、次の問題のヒントになるものが多いです。確実に解けるようにしてほしい問題です。

【午後特別入試について】
難度に関しては、ほかの 2 回のテストとほぼ同じです。大問のうち 1 題が難しくなる場合や、問題数が少し多くなる場合もあります。

国語

第 1 回・第 2 回の出題は、大問 1 が「漢字の読み書き」、大問 2 が「説明文」、大問 3 が「小説」という構成です。出典は、現在活躍中の作家のものがほとんどです。説明文は、科学・言語・哲学など幅広い分野から、小説は、10 代から 20 代の主人公を描いたものから選ぶようにしています。出題方針は、説明文・小説とも「展開を踏まえて読める力」を見ることです。それに沿って、説明文なら選択肢の正誤、キーワードの同値内容の抜き出し、内容をまとめる記述などを出題します。小説なら、登場人物の性格や心情、行動の理由などを選択肢や記述で問います。慣用句やことわざ、修飾語の適語補充の問題もよく出ます。

【午後特別入試について】
午後特別入試では、大問 1 「漢字の読み書き」、大問 2 「説明文」のみとなります。出典、出題傾向、難度は第 1 回・第 2 回と同じです。なお、図や文章など複数のテキストを踏まえた問題を入れるようにしています。

理科

出題の狙いは、小学校で学ぶ理科の内容と身近な自然現象に関する知識の定着度・理解

度を見ることにあります。また、これらを通して理科に対する興味や関心の深さを測ることも目的としています。
出題範囲は、小学校理科の全範囲、主に「物質・エネルギー」と「生命・地球」です。そのほか、新聞やニュースで話題となった事柄や日常生活における科学的知識についても、学齢にふさわしい内容であれば出題範囲に含めます。主な出題形式は、自然現象の観察結果やデータを読み取ったり、小問の誘導に従ったりしながら解答していく形式です。各大問には基本から発展までの小問のほか、時事問題、描画・作図問題なども含まれます。出題傾向として、「物質・エネルギー」分野では「物質の性質とその特定」や「水溶液の性質」といった実験をテーマにした問題が多く、知識問題だけでなく計算問題や実験装置に関する問いも含まれます。また、「力のつりあい」「振り子の運動」など、自然現象の法則性を問う問題では、実験の意図や設定を的確に読み取る力が求められます。「生命・地球」分野からは、生物の生態や分類に関する知識問題、個体数の変化などのデータから原因を考察する問題、動植物のつくりに関する問題などを出題しています。

社会

本校の社会の出題については、社会に興味を持っていること、基本的な事項をきちんと理解できていることを重視しています。歴史約 50%、地理約 30%、公民約 20%と各分野から幅広く出題されるため、偏りのない、バランスの取れた学習の結果が求められます。社会を課す入試は 2 回ありますが、2 回ともほぼ同じ配点です。漢字は 3 分野すべてにわたり、正誤を重視しています。記述問題も出題します。
配点の最も高い歴史分野では、すべての時代が対象になります。時代ごとの問題だけでなく、テーマ別にいくつかの時代にまたがって出題することもあるため、どこかの時代だけを好んで勉強するのではなく、古代から現代まで幅広く勉強してください。漢字ミスが最も目立つのが歴史の問題です。歴史の用語は漢字で正しく書ける必要がありますが、惜しいミスが毎年多く見られますので気をつけましょう。
地理の分野では、都道府県名や自然の地名、地形の特徴などの基本的な知識を問う問題に加え、地図・グラフ・統計を読み解くことにより、じっくり考え、論理的に思考すると答えにたどり着くような問題もあります。白地図を使って基本的な知識を確認すると同時に、気候や産業・地形などについては、「なぜそうなるのか」を考えながら学習を進めてください。また、世界地理についても、特に日本とのかかわりの深い国や地域について基本的な事柄は出題します。
公民の分野では、政治を中心に基本的な知識を問う問題と、時事問題が出題されます。日々のニュースや日常の出来事に関心を持つことがとても大切です。

西武学園文理中学校

算数

試験時間は 50 分で、配点は 100 点となっています。中学で学習する数学では、法則性などについて論理的理解を深めていくので、その前提として計算が速く正確にできることが大切な要素です。たとえば、(　　) を含む計算を正確に行う力が求められます。応用問題も複雑なものは多くありません。テクニックに頼らず、順序良く解いていけば、法則が見えてきて正解にたどり着けるような出題傾向となっています。

例年 1 月 10 日の午後に行われる特待入試では、少し難しい応用問題も含まれますが、全体を把握し多方面から考える工夫をすることで解答の糸口が見えてきます。例年の傾向として、1・2は計算を中心とした基礎的な小問集合、3～5は応用問題という構成になっています。図形（平面・立体)、速さや濃度、グラフの利用など幅広い分野から出題されますが、小問（1）は基本的な問題となっていることが多いのが特徴です。

国語

試験時間は 50 分、配点は 100 点となっています。国語は、他人とのコミュニケーションに必要なのはもちろん、みずからの頭で思考を巡らせる根幹となる教科です。そのため、ことばの基本的な使い方や、ことばで表された気持ちの読み取りなどに重点を置いた出題となっています。接続詞や副詞などの文法事項を含め、正確なことば遣いができているかを問うほか、登場人物の立場に立った心情の変化や作者の思いを尋ねる問題も含まれます。

例年の構成は、1が説明的文章（接続詞や副詞など文法に関する適語補充、キーワードの言い換えなど)、2が文学的文章（登場人物の心理変化、作者の言いたいことの全体把握)、3がことわざ・故事成語など（空欄補充や意味を問う問題)、4が学校で習ったり使ったりする漢字・ことばを中心とした出題となっています。「とめ・はね」もていねいに書くことが求められます。

理科

小学生の段階で身につけておいてほしい基本的な知識や理屈、理科的なものの考え方を問う問題を中心に出題される傾向にあります。日常生活のなかで出会う理科的事柄に関心を持ち、日ごろから「なぜ・どうして」という疑問を大切にして学習を進めることが推奨されています。

物理・化学・生物・地学の各分野からバランスよく、基本的な問題から応用的な問題まで出題されますので、得意な分野から取り組むなどの時間配分の工夫がポイントとなります。

例年の構成として、1は物理的問題（乾電池や電球の電気、ゴムやばねの力、光の性質など)、2は化学的問題（物の溶け方、水溶液の性質、気体の発生など)、3は生物的問題（昆虫や植物の生活・成長、季節や環境とのかかわり、からだの仕組みなど)、4は地学的問題（太陽・月・星の位置の変化、天気の様子、地層、火山や地震の特徴など）となっています。

社会

中学では、「覚える」勉強から脱却して、「なぜ・どうして」を考え、より深く理解することが求められます。日ごろから「なぜ・どうして」という疑問を大切にして学習することが望まれます。

出題は地理的分野、歴史的分野、公民的分野、そしてそれらを組み合わせた融合問題から構成される傾向があります。大問の構成例としては、1が地理的分野、2が歴史的分野、3が公民的分野、4が分野の枠にとらわれない「融合問題」となっており、自分のことばで説明する論述力を問う問題が出題される場合もあります。

※理科と社会は合わせて 60 分で、配点は各 60 点となっています。事前に時間配分をシミュレーションしておくことが勧められます。試験会場には時計が設置されますので、「○分経過したら次の教科に移る」といった自分なりのルールを決めておくとスムーズでしょう。

専修大学松戸中学校

算数

1では計算問題の小問を 4 問出題します。2は特殊算、数や図形の基本的な性質を問う問題、単位の変換などの小問 5 問です。3から7までは文章題で、グラフを読み取る問題、規則性を見つける問題、図形の問題などを出題します。最後の7は思考力・判断力・表現力を問う問題です。

国語

例年どおりの傾向で、大問 3 題を出題します。1は漢字の読み・書きを合わせて 10 問。2は物語文、3は説明文です。レベルは中学入試として標準的で難解な問題はなく、ことばの問題、文法の問題といった知識問題も文章のなかから出題しており、総合的な国語の力を試すものになっています。文章の内容もそれほど難しくはないので、スムーズに読み進められると思います。解答方式については、記号の選択や文章中からの書き抜きが多いですが、自分のことばを使って答える記述式の問題も出題します。

理科

形式・難度とも例年と変わらず、標準的な問題です。大問は、物理・化学・生物・地学の 4 分野を各 1 題と、小問集合が 1 題で、各分野からまんべんなく出題しています。表やグラフを読み取って答える問題、絵やグラフを描く問題も出題します。

社会

難度は例年どおりで、基礎知識を問うものが中心です。大問は総合的な社会（地理・歴史・公民の全分野）が 1 題、地理的分野が 1 題、歴史的分野が 2 題、公民的分野が 1 題の 5 題です。各分野とも、基礎知識をもとに自分で考えて「定められた字数でまとめる」練習をしておきましょう。また、「グラフや表を読み取る」学習もしておいてください。「時事問題」も直接的または間接的に出題します。秋ごろまでのニュースや話題になったことについても調べておくとよいでしょう。総合的な社会の問題では「地形図などの地図を読み取る」学習をしておきましょう。日本とかかわりの深い国や国際問題などについても学習しておくことをお勧めします。

麗澤中学校

算数

第 1 回から第 3 回まで共通で、問題文で問われていることを的確に読み取ったうえで、素早く正確に計算できる力、文を数式や図に直して視覚化（イメージ）できる力、常に正しさを実験して確かめることのできる力を見ます。計算力を高めるには、毎日計算問題を解く習慣が必要です。たとえば 1 日 1 回、決まった時間に必ず問題を解くようにしてみるとよいのではないでしょうか。文を数式や図に直すためには、問題文が伝えたい情報を漏れなく読み取ることが必要です。まずは問題文から読み取ることのできた情報を箇条書きにして、それを数式や図に直す練習をしてみましょう。これを繰り返せば、必ず文章題に強くなります。また、具体的に数値を代入してみたり、可能性のあることを書き出してみたりすると、次の流れが予想できるものです。ふだんの学習のなかで、困ったときは地道に書き出してみることを大切にしてください。
以上の力は中学入学後、算数から数学へと学びが進んだときにも必要となります。本校の入試問題を通して、一足早く「数学」の楽しさを味わってもらえればと思います。

国語

第 1 回・第 2 回では、漢字を正確に読み書きする力、説明的文章の論理的読解力と論理的思考力、物語的文章の人物の心情を推し量る力を問います。学習方法のヒントは、漢字を「正しく」「はっきり」書く練習をする、説明的文章や過去問の文章をじっくり読む、物語的文章では心情を表すことばをチェックしながら読むことです。漫然と問題演習をこなすのではなく、正答にいたる過程を一つひとつ明確に理由づけしながら学習する姿勢を大切にしましょう。
第 3 回では、教育漢字のなかから、読み書きの問題を出題します。説明的文章や物語的文章の本文では、限られた時間内に、ある程度まとまった文章を正確に読み取り、問われていることに的確に答えるためにも、ふだんから使えることばを増やすこと、そして大人が読むような文章にも挑戦することを大切にしてください。また、文章以外に詩や絵、漫画などを読解する問題も出題することがあります。このような問題でも、説明的文章の読解と同様に、詩や絵などから重要な情報を正確に読み取り、理解する力を求めます。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。いずれの分野も、基礎的事項が理解できているかを確認するような内容に加えて、それらの活用力、「読解力（文章・図表）」「論理的思考力」を測る問題も出題します。科学的な自然現象がなぜ起こるのか、どのような法則性があるのかなどを主体的に考える姿勢を常に持って、探究心を持って、日ごろから理科の問題に取り組んでください。「科学への興味・関心」を判定するために、「科学時事」に関する問題も出題します。最新の科学の世界に、ぜひ興味を持ってください。

社会

単に地理・歴史・公民の知識を問うのではなく、リアルタイムで生きる社会とのかかわりを意識することを重視します。社会科で学習した内容・知識を実際の生活のなかで生かしていく力を問います。図・グラフ・史料を読み解く力、そして読み解いた事柄を複合的に考察して答えにたどり着く力を身につけましょう。新聞・ニュース・インターネットなどを通じて、時事的な事柄についてもアンテナを巡らし、社会の諸問題に関心を持って学習するよう心がけてください。社会の語句については、特に漢字で書くことを指定された場合を除き、ひらがなで解答しても構いません。一方で、漢字で書くように指示されている語句は、必ず正しく漢字で解答してください。

英語

小学校での英語教育が必修化され、実践的な英語コミュニケーション能力がいっそう高まっています。ただ単語や文法などの知識が多いだけでなく、それを上手に活用することも重要になってきています。そこで本校では、受験生の英語力を総合的にじっくりと測るために、リスニングとリーディングを中心とした総合問題を出題しています。

リスニングでは、できるだけ実際のコミュニケーション場面を想定し、スピードのある英問英答や長めの英語の内容把握問題など、さまざまな形式で出題する予定です。リーディングでは、知識の習得だけでなく、それを活用することをめざし、資料を参照しながら読む、英文をもとに簡単な計算をするなど、さまざまな技能を統合した問題を出題します。こういった問題を解くには、十分な処理速度も必要です。日ごろから英検®3 級～準 2 級レベルの問題や本校の過去問題に挑戦しながら積極的に英語に触れ、実力を磨いてください。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。